

Gの政治考



Gの政治考は
公式サイトで更新中です。
<http://gaun-yoshinao.com/>



2017.7.30

松本城から、多事争論を取り戻す

松本城公園を会場に過去3回で5万人余りを集めたクラフトビールを味わうイベントについて、公園を管轄する松本市教育委員会が「飲酒は松本城の品格にふさわしくない」という理由で事実上開催を認めない措置を取ったことが、市民に波紋を広げています。イベント開催の是非から、酒を嗜むことの意味まで、さまざまな観点の意見が飛び交っていますが、僕が感じる一番の問題は、決定のプロセスと責任の所在です。



今回の決定は、いつどのように行われたのか。地元紙の報道によりますと、今年3月に開かれた教育委員会の非公式の協議会で、松本城公園の使用許可に関する内規に「飲酒や酒類販売を伴うイベントは自粛を要請する」という細目を追加することが承認されたということです。教育委員会は、市長が任命する教育長と民間から選ばれた4人の委員で構成され、その傘下にある教育部の松本城管理事務所が公園の管理や整備を担当しています。「飲酒は松本城の品格にふさわしくない」として内規の改

正を提案したのは、教育委員会のメンバーなのか管理事務所の職員なのか。その上で、どのような議論を行って3月の決定に至ったのか。そもそも、これだけの方針転換をなぜ定例の委員会で議題とせず非公式の協議会で取り扱ったのか。不明朗な点が数多くあります。教育委員会と松本市には、速やかに情報を公開して市民が納得する説明を行うことが求められます。こうしたことが明らかになって初めて、今後の対応について幅広い視点の議論ができると思います。

内規の改正によって市民の活動に関わるルールが変更されるという点にも、釈然としないものがあります。本来、内規とは、その組織の内部だけで適用することを目的とした規則です。そうであるがゆえに、通常は外部に公開されないことが前提となっています。松本城公園に関する内規も、市民に公開されていません。プロセスどころか判断基準も、正確にはオープンにされていないわけです。これでは担当者の裁量で恣意的な運用が行われても、是正することは困難です。市民の目に見えるルールとして定めることが、責任の所在を明確にするためにも必要です。今回、内規の改正で用いた表現が、「禁止」ではなく「自粛要請」となっているのも、市民の自主的な判断によるという体裁を取ることで、行政に批判の矛先が向かないようにしたいという思惑が透けて見えます。

いつどこで誰が主導して決めたのか、よくわからない。市民が問題を認識したときには、すでに結論が出ている。幅広い視点に立って議論しようにも、議論する場がない。これは、松本城公園の使用問題にとどまらず、いまの松本市に散見される行政スタイルです。「新博物館」の建設も、「新市庁舎」の建設も、大勢の市民の目に触れないうちに限られた範囲の人間で決めてしまおうと考えているとしか思えない方法で進められています。これでは、未来に向けて、より良いものを創り出していくことはできないと思います。時代の変化を見据えて、もっと視野を広げて、松本の街づくりを考えていくべきです。今回の問題を契機に、松本城を「市民の憩いの場」として「旅行者が楽しめる場」として、さらに魅力あるものにしようと考えると、すぐ隣にある現在の市役所の敷地をどう活用していくことがベストなのかという議論も、自ずと起きてくるでしょう。

いま松本に何より大切なことは、「多事争論」です。1つの意見がどんなに正しくても、ほかの意見を最初から排除せず、大勢の人々が様々な議論を戦わせること。若い世代の意見や異端視される見解にも耳を傾け、自由の気風の下で物事を決めていくこと。「忖度」とは対極に位置する政治の構えです。多事争論のある社会を取り戻すことに、ビアフェスで広がった波紋をつなげていきたいと思っています。

編集後記

先日、松本の街は「松本マラソン」で賑わいました。家族で参加した人、初めてフルマラソンを完走した喜び、タイムを報告する友人、face bookもマラソンの記事で溢れていました。それぞれの目標設定で挑戦することができるのもマラソンのいいところです。第1回大会は、様々な形でたくさんの方が参加し、街が1つになって盛り上がりました。松本の宝が1つ増えました。(くり)

臥雲の会 事務局
〒390-0811
長野県松本市中央1丁目2-24
電話 0263-36-7343
Fax 0263-50-6727
E-mail info@gaun-y.com

2017
10
vol.5

Lの視点で、Gの時代を穿つ

G通信

臥雲義尚 × リポート

臥雲は日々何を考え、活動しているのか。
その横顔と頭の中を覗けるニュースレターです。

保守であり、寛容であること

「政界は一寸先は闇」。民進党の山尾ショックが引き金となって起きた、この1か月間の動きを振り返ると、政治は何が起きるかわからないということを改めて実感します。前原民進党の躓きに乗じて、安倍総理大臣が臨時国会冒頭で解散する方針を決めたと報道されたとき、僕自身は何を問う選挙にすべきなのか考えあぐねていました。そうした頃、前原代表と小池百合子東京都知事が密談し、小池氏を党首とする新党を立ち上げて民進党を事実上合流させる方向へ動き始めていました。そして、小池氏が新党の陣頭指揮を取って自らも立候補する布石を打ち始めたことで、政局は日々目まぐるしく変化し、まもなく公示される衆議院選挙の行方は混沌としています。

小池氏が希望の党の設立を宣言した際に、絶妙のポイントを押さえてくるなど唸らされたのが、「改革する保守」というフレーズです。広辞苑によれば、保守とは、旧来の風習や伝統を重んじ、それを保存しようとすること。語義矛盾に近い言葉のはずですが、いまの民意が求めているものを言い当てています。東京から松本に戻って以来、保守という言葉が広く生活に根

を張っていることを感じます。地元で長く暮らしてきた年配の方々はもちろん、子どもと一緒に神社の祭りに参加する若いお母さんたちの姿を見て、保守とは安定であり日常である、そう実感します。

同時に、僕が松本で暮らしていて大切にしなければならぬと感じるのは、寛容であることです。寛容とは、心が寛大でよく人の言動を受け入れること。異端的な少数意見を発表する自由を認め、そうした意見の人を差別待遇しないこと。この点こそ、与党が3分の2以上の議席を占める安倍1強体制にも、菅谷市長が4期目に入った松本市政にも、欠けている点だと考えます。機を見るに敏な小池氏は、新党の綱領の第一に「寛容な改革保守政党」を目指すと掲げましたが、候補者の選定で自ら「排除」という言葉を使い、寛容とは程遠い姿勢を露呈しています。

保守であり、寛容であること。人口が減少し、収入の伸びも見通し難い時代に入った日本で、とりわけその傾向が顕著な地方都市で、世代や立場を超えて共有する“政治の構え”であると感じています。

臥雲義尚

“ 都市機能と自然環境のバランスが取れた職住接近の暮らしに、才能ある若者が惹かれる時代。松本が目指す都市像です ”
「米FB シリコンバレーに住宅建設へ」

日々更新中 /

臥雲の日常と横顔



Facebook



7月～9月 主な投稿記事

- 7/11 松本神社の神輿渡御に参加
- 7/13 新博物館コンペは予定調和
- 7/20 70年ぶりの甲子園へ届かず
- 7/21 「ジセダイトークPlus」開催
- 7/27 新庁舎候補地検証委傍聴
- 7/28 松本城公園「ピアフェス」中止
- 8/16 松商足立監督親子の甲子園
- 8/19 高校生がアイデア商品販売
- 8/20 若い世代が集うマーケット
- 8/22 「サマーフェスト」平日も盛況 a
- 8/24 松本城公園規制の内規廃止
- 9/ 4 市役所現地建替を議会了承
- 9/ 7 安曇地区で超世代の秋祭り b
- 9/ 8 第1地区パトロールに参加
- 9/10 「アリオ」39年の幕閉じる c
- 9/11 9月議会一般質問を傍聴
- 9/16 「イオンモール松本」開業 d
- 9/21 シェア自転車視察で金沢へ e



a



b



c



d



e

8月後半の夜に市街地の真ん中にある花時計公園で開かれている「松本サマーフェスト」。ドイツ産のビールと地元飲食店のフードを提供する野外レストランが、平日の夜にこれほど大勢の若者とヨーロッパの旅行者で賑わっているとは、正直思いませんでした。中心市街地の公園というロケーション、程良いクオリティと地元色のバランス。松本の街でこれから賑わいを生み出していくために必要なことは何か、いろいろと考えさせられた夜でした。

松本駅前のバスターミナルに併設された総合スーパー「アリオ」が、今夜8時で閉店。イトーヨーカドー→エスパールアリオと店舗名を変えて、39年間続いた営業に幕を下ろします。駅前に住んでいた中学・高校時代、おとし松本に戻ってきて以降、頻りに買い物に来ていた場所なので、やはり感慨深いものがあります。来週に迫ったイオンモールの開業を受けて、人とクルマの流れがどう変わるのかを見極めながら、アンカースタアが去った後の松本駅周辺の再整備に本腰を入れて取り組む必要があります。

金沢市のシェア自転車「まちのり」を実体験するために、弾丸ツアーをしてきました。さすが加賀百万石、松本市の何歩も先を行くシステムが導入されていましたが、街の構造や自然環境といった面で比べれば、松本の方が断然自転車適地であることを実感しました。詳しくは、来週26日夜のジセダイトークでレポートしたいと思います。それにしても、平日なのに金沢市内は国内外の観光客でこれほど賑わっているのか、と驚かされました。

連絡事務所看板「ジセダイの松本へ」

市内12か所に設置する連絡所の看板を新しくしました。「ジセダイの松本へ」には、オール松本の“多世代市民のための未来”を見据えた街づくりを目指すとの思いが込められています。前号でもご紹介した情熱と行動力をイメージする「ダークトマトレッド」を基調色にしたインパクトのあるデザインで、強い志をお伝えできればと思います。本人同様、街角で遭遇しましたら、激励をお願いいたします。



次代を
にう 若者 × 臥雲

ジセダイと語る 松本のプライド

ジセダイトーク

臥雲の Facebook コメントより

2年前に議員のあり方を変えたいと訴えて当選した青木議員。「議会の常識」に戸惑いながらも、全市政の課題に取り組む議員を目指して模索を続けています。2時間を超える議論を通して、若さに似合わぬ理路整然とした話ぶりで、新たな政策提案型議員の可能性を感じさせてもらいました。議論は人を勇気づける、です。

6/30

議会のチカラで市政を動かす ～最年少市議の2年2か月～



第11回のゲストは、松本市議会の最年少議員、青木崇さんでした。地方自治は二元代表制で首長と議会が丁々発止するはずが、「思っていることを発言できない空気」を感じていると言います。それでも、風通しのいい議会を目指し政治関心を高めるために、ほぼ毎日、ブログで自身の活動を発信しています。今後も独自の活動に注目です。

8/30

どうするジセダイ交通戦略 ～イオンモール開業を見据えて～

第12回は、イオンモール開業を目前に控え、松本の交通政策について、交通まちづくりプランナーの富樫慎さんと共に考えました。軽井沢プリンスモールの交通渋滞対策に携わった経験から、中心市街地の渋滞予測と具体的な対策について、詳しい解説をしていただきました。市民意識と行動が状況を左右することがよくわかりました。



自転車を都市交通の主役にする。バスを魅力ある交通手段にする。クルマは広域を移動するツールとして賢く使う。そして、シームレスにつながる都市交通を創っていく。そのために直ちにできることは実行し、修正すべき点は修正して道路インフラの整備にも着手する。市民も意識を変えていく。イオンモールを松本の交通を変えるトリガーにしよう。

トークライブの進行役に出張しました。 /



9月30日、市議会議員選挙を控えた安曇野市で、「地方議会」をテーマとする政治トークライブが開催され、コーディネーターとして参加しました。企画した安曇野市の増田望三郎議員、伊那市の八木沢真議員、福岡県糸島市の藤井芳広議員の3人は、1回生議員で1ターナーという共通の経歴を持ち、地域は異なるものの、それぞれ体験した議会は「議論しない議会」と感じたそうです。それでも、「議会は必要なの？」という問いに、「市民の声を届ける代弁者」という気概を持って取り組んできた議員生活を熱く語ってくれました。2時間を超える討論を聞いて、こういう議員が大勢出てくれば、「議会が変わる。社会も変わる。」と思え、どこか清々しい気持ちになりました。